

第1回エデューカーレ in たかはし

みんなでつくる高梁の未来ビジョン

～創造しましょう高梁の未来 語り合しましょうこの街の幸せ～

報 告 書

開催日時：平成 26 年 7 月 19 日(土) 13 時 00 分～17 時 00 分

会 場：吉備国際大学国際交流会館 2 階多目的ホール

主 催：エデューカーレ in たかはし実行委員会
共 催：高梁商工会議所青年部
後 援：高梁市
協 力：吉備国際大学井勝研究室

1. はじめに

「エデュカーレ in たかはし」は、吉備国際大学の学生が主体となってワークショップ型の課題解決手法を実践することにより、学生が実践的な課題解決能力を身につけ、社会に貢献できる人材となることを目指しています。学生が、高梁という地域で、地域と共に学ばせていただき、少しでも地域に貢献することができればとの思いから企画しました。

第1回目の今回は、高梁商工会議所青年部の五島会長や高梁市役所の皆様からアドバイスをいただきながら準備を進め「みんなでつくる高梁の未来ビジョン」というテーマでワークショップを開催しました。

なお、「エデュカーレ」は「エデュケーション」の語源となったラテン語で、「引き出す」という意味があります。学生や市民の皆さんの課題解決能力を引き出すという思いを込めてフォーラムの名前を「エデュカーレ in たかはし」としました。

2. 実施内容

1) 全体プログラム

13時00分～

開会あいさつ・趣旨説明

13時10分～

高梁市の状況報告と課題の共有

1. 高梁の歴史と文化（発表：荒木）
2. 人口推移と未来の予測（発表：白神）
3. 高梁の経済状況（発表：板垣）
4. 福祉と医療（発表：安藤）
5. 持続可能な社会の指標（発表：花谷）

14時00分～

高梁の未来ビジョンづくり

1. ワークショップの説明
2. グループ分け・アイスブレイク
3. 「幸せ」の抽出
4. 「未来ビジョン」の抽出
5. 「未来ビジョン」の作成

16時00分～

成果の発表と共有

16時50分～

閉会あいさつ

プログラムシート					
研修会等名称: 第1回エデュカーレ in たかはし					
WSタイトル: 高梁の未来ビジョン					
狙い/成果 目的 地域課題を解決するための手法を身につけた人材の育成 目標 高梁の未来ビジョンの作成					
対象者/人数 対象者: 60人が目標 市民30人、大学生20人、高校生10			時間/場所 場所: 吉備国際大学国際交流会館 時間: 13:00~17:00		
	時間	狙い/目標	活動内容	進行役	場の設定と準備品
開始	13:00	オープニング	・開始の宣言 ・配付資料の説明 ・プログラムの説明	ティオミコ	・シアター型 ・椅子のみでも可 ・司会者用メモを準備
開会挨拶	13:10 (10分)	・参加者に趣旨を理解してもらう ・実行委員の紹介	・エデュカーレ in たかはしの説明	矢田	・趣旨書を読む
情報共有	14:00 (50分)	・ワークショップの前に参加者で情報を共有する	①高梁市の歴史と文化(荒木) ②人口推移と将来予測(白神) ③経済活動の状況(板垣) ④福祉と医療(安藤) ⑤幸せの概念(花谷)	ティオミコ	・パワーポイントで説明 ・パソコン ・プロジェクター ・ポインター
ワークショップのオープニング	14:05 (5分)	・ワークショップのテーマと目標を説明する	・ワークショップの説明 ・グランドルールの説明 ・休憩の説明	井勝	・プログラム貼り付け ・グランドルール貼り付け
グループ分け	14:20 (15分)	・アイスブレイク	・グループ分け ・アイスブレイク(チェックイン)	井勝	・笛 ・ストップウォッチ ・グループワーク
アクティビティー1	15:45 (25分)	・幸せの抽出	・ブレインストーミング&KJ法 ・ワールドカフェ	井勝	・ポストイット(中) ・模造紙 ・マーカー(小)・(大)
アクティビティー2	15:30 (45分)	・未来ビジョンの抽出	・ブレインストーミング&KJ法 ・ピラミッドランキング	井勝	・ポストイット(中)・(大) ・模造紙(中)・(大) ・マーカー(小)・(大)
アクティビティー3	16:00 (30分)	・未来ビジョン作成	・未来ビジョンの作図	井勝	・模造紙 ・マーカー(小)・(大)
アクティビティー4	16:50 (50分)	・シェアリング/プロセッシング	・グループ毎の発表 ・5分×10グループ	井勝	・ホワイトボード ・磁石 ・指し棒
エンディング	17:00 (10分)	・まとめ ・アンケート記入	・おわりの挨拶(五島)	ティオミコ	・椅子のみ ・ホワイトボード
準備物等 ①ワークショップ用品 ・模造紙・ポストイット・マーカー・テープ・はさみ・磁石・タイマー・笛・指し棒・ストップウォッチ・A4用紙 ②プロジェクター ③スクリーン ④ホワイトボード ⑤ポインター ⑥カメラ ⑦放送機器一式 ⑧CDプレーヤー ⑨飲み物、コップ、おやつ、チョコレート、アメ等 ⑩菓子盆 ⑪名札 ⑫アンケート回収用の箱 ⑬名札回収用の箱					

2) ワークショッププログラム

1. オープニング (5分)

- 1) WSテーマと目標の説明
- 2) プログラムの説明
- 3) グラドルールの説明
- 4) 休憩は適宜自由にとってもらうことの説明

2. グループ分け&チーム・ビルディング (15分)

1) グループ分け (6～7人一組) (5分)

- ① 30才以下と30才以上に分かれる。
- ② 輪になってもらう (時間があれば誕生日順)
- ③ 1番から番号を付ける。(グループの数だけ)

注) 全体の人数を確認しておき、1グループが6人になるようにグループの数を決定しておく。

2) アイスブレイク (チェックイン) (10分)

一人ずつ順番に、最近身近にあった出来事や気になるニュースなどを1分程度で話す。進行役がコメントをする必要はない。一人の発言が終わるたびに拍手をして場を盛り上げる。

《テーマ》

- ・名前、所属、血液型と生まれたところ
- ・マイブーム
- ・最近一番うれしかったこと

3) グループ名 (2分)

- ・グループ名を考える。A4用紙を4つに折りグループ名を書く

3. 幸せな生活の抽出 (ブレインストーミング&KJ法) (25分)

1) 項目の抽出 (5分)

- ・「あなたが考える幸せな生活とはどんな生活ですか？」
- ・個人でポストイットに書き出す

2) ポストイットの読み上げ (5分)

- ・一人ずつ読み上げながらポストイットを貼り付ける

3) 項目の抽出 (10分)

- ・ポストイットを模造紙の上でグループ分け
- ・各グループはどのような項目か、題名をつける

4) ワールドカフェ (5分)

- ・他のグループで抽出された幸せを見て回る

4. 高梁の未来ビジョン抽出 (ブレインストーミング&KJ法&ピラミッド) (45)

1) 項目の抽出 (5分)

- ・「あなたが暮らしたい地域社会はどんな社会ですか」
- ・個人でポストイットに書き出す

2) ポストイットの読み上げ (5分)

- ・一人ずつ読み上げながらポストイットを貼り付ける

3) ポストイットのグループ分け (10分)

- ・ポストイットを模造紙の上でグループ分け

4) 項目の抽出と題名付け (5分)

- ・各グループはどのような項目か、題名をつける。

5) 題名をポストイット (大) に書き出す (5分)

6) ピラミッドランキングの実施 (15分)

- ・最も大切だと思うものを一番上に一つ
- ・次に大切だと思うものを二段目に二つ
- ・その次に大切だと思うものを三段目に三つ
- ・この要領でピラミッドを作る

5. 高梁の未来ビジョンのまとめ (30分)

1) ピラミッドランキングの最上位項目を模造紙の真ん中に貼る。

2) その項目の達成に必要な事項、関係する事柄をポストイットに書き出す (5分)

3) その理想を実現できる社会はどんな社会か作図する。(25分)

6. シェアリング/プロセッシング (60分)

1) グループ単位で発表 (6グループ×5分)

2) 時間的に可能ならグループに分かれて

- ・今日のワークで感じたこと (全員 一人1分×6)

3. 実施結果

1) 参加者

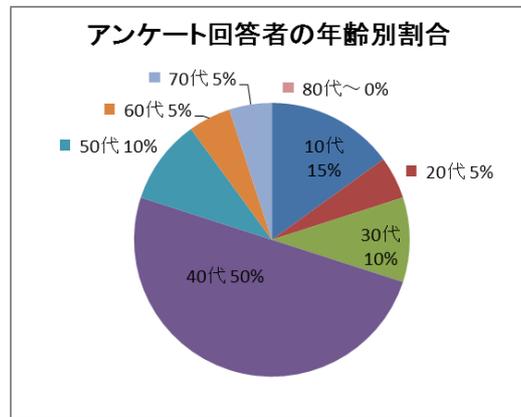
参加者は、一般市民（教員、主催者を含む）18名、学生・生徒17名の35名であった。アンケートは主催した井勝研究室の学生を除き、20名の方から回答があった。以下にアンケート結果をまとめた。

(1) アンケート回答者の年齢・性別・居住地

年齢	来場者数
10代	3
20代	1
30代	2
40代	10
50代	2
60代	1
70代	1
80代～	0

性別	来場者数
男性	17
女性	3

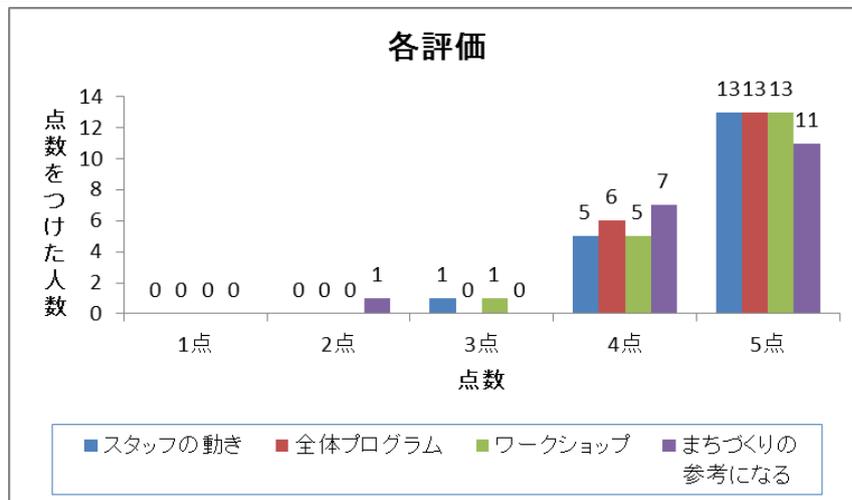
居住地	来場者数
高梁市内	12
高梁市外	8



(2) ワークショップ等の評価

	1点	2点	3点	4点	5点	有効回答	無回答
スタッフの動き	0	0	1	5	13	19	1
全体プログラム	0	0	0	6	13	19	1
ワークショップ	0	0	1	5	13	19	1

	1点	2点	3点	4点	5点	有効回答	無回答
まちづくりの参考になる	0	1	0	7	11	19	1



2) ワークショップの結果

(1) 「あなたが考える幸せな生活とはどんな生活ですか？」で抽出された項目

高粱の未来ビジョンを考える場合、地域住民が幸せな生活を維持できる社会を創ることが必要であると考え、「あなたが考える幸せな生活とはどんな生活ですか？」という問いかけを行った。この問いかけについて、ブレインストーミングにより多くの項目が書き出され、各項目をKJ法によりまとめたところ下記の項目が抽出された。

- ・グループ A：人間関係、欲(物、時間)、精神的幸せ、健康、安心・安全
- ・グループ B：仕事、友人・人間関係、趣味、夢・希望、メンタル・心、
フィジカル・健康
- ・グループ C：健康、安心・安全、便利な生活、趣味、ふれあい、友人、家族、愛、
仕事、ボランティア、お金
- ・グループ D：健康、趣味、時間、自然、生活関係、社会、人間関係、精神
- ・グループ E：趣味、心身の健康、衣・食・住、人間関係、時間、お金、
役割・やりがい、生活環境
- ・グループ F：街づくり、趣味、安心・安全、欲望、おいしいごはん、友達、家、
自然、地域、家族

(2) 「あなたが暮らしたい地域社会はどんな社会ですか」で抽出された項目

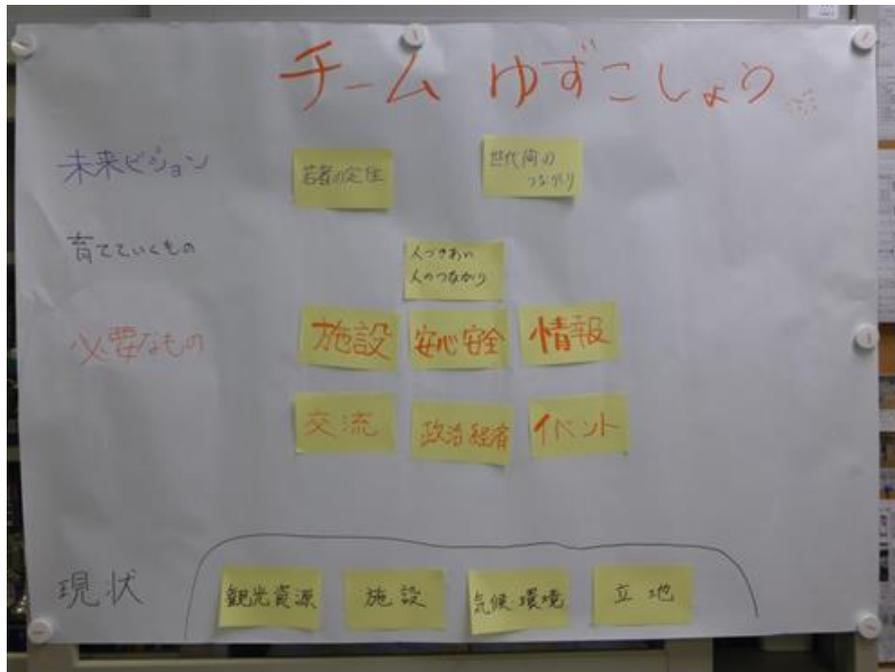
高粱の未来ビジョンを作成する前に、「あなたが暮らしたい地域社会はどんな社会ですか」という問いかけを行い、ブレインストーミングとKJ法により項目を抽出した結果、下記の項目が抽出された。

- ・グループ A：観光資源、人付き合い・人のつながり、立地、施設、安心・安全、
気候・環境、政治・経済
- ・グループ B：自然、精神面、安心・安全、利便性・インフラ整備・生活基盤、
ワクワク、政治、福祉
- ・グループ C：自然、経済、安心・安全、若者、コミュニケーション、医療、
にぎやか、特産品、趣味
- ・グループ D：コミュニティ、癒し、生活、安心・安全、医療・福祉・教育、
施設・設備、インフラ
- ・グループ E：産業、環境、安全、医療・福祉・教育、コミュニティ、交通、娯楽
- ・グループ F：安心・安全、地域交流、にぎわい、交通、自然、子ども・若者、
その他(有名人がいる、農業が盛んなど)

(3) 各グループが作成した高梁の未来ビジョン

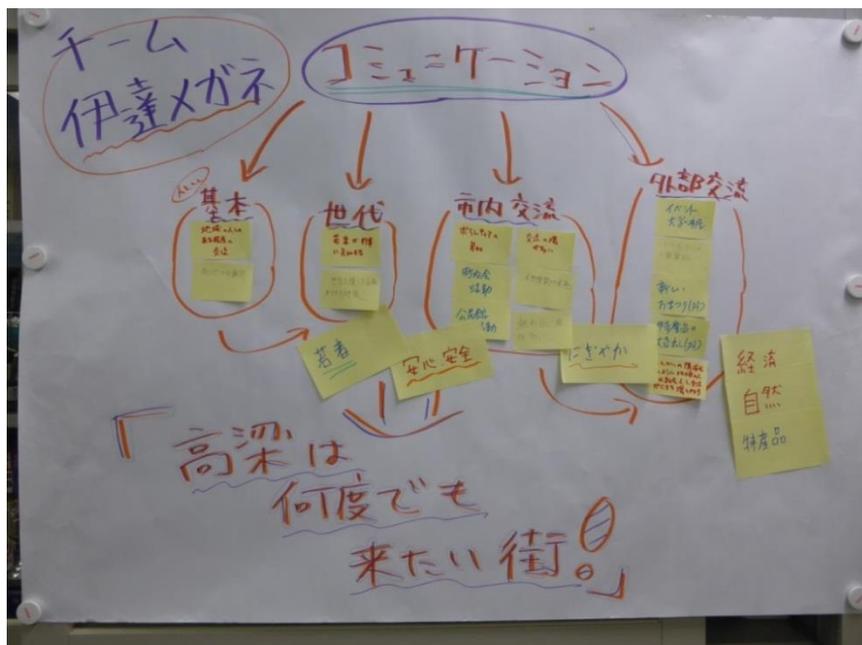
①チームゆずこしょう

このグループは、若者の定住と世代間のつながりを重要なこととして考え、高梁の未来ビジョンを作成しました。高梁の現状から未来ビジョンに必要なものを考え出し、まとめました。



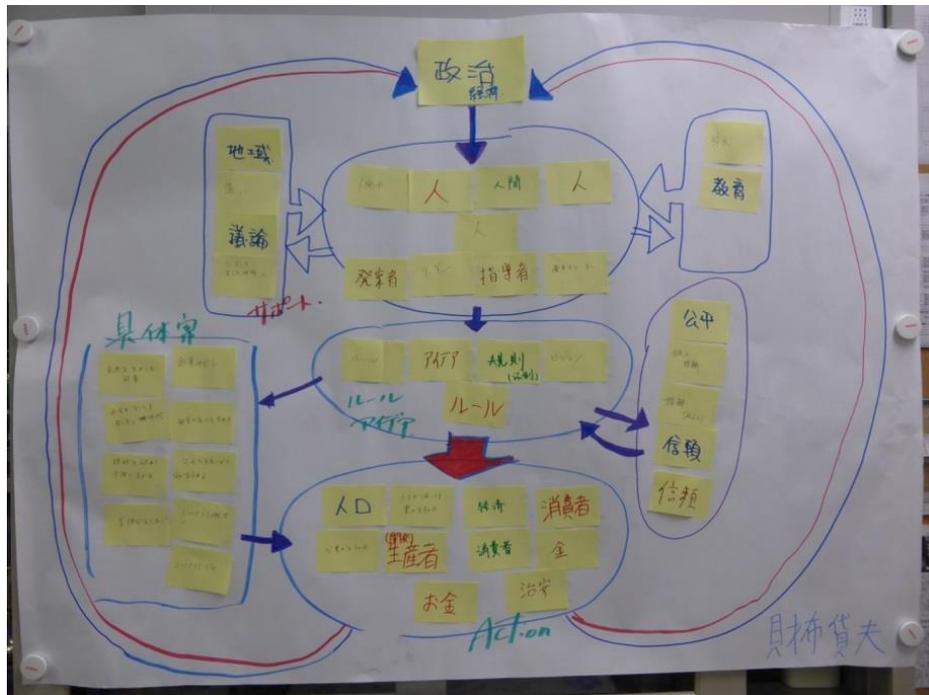
②チーム伊達メガネ

このグループは、コミュニケーションを通じて高梁の未来ビジョンを作成していました。そのためには、人としての基本的なあいさつや世代間交流、市内交流、外部交流を必要と考え、その結果高梁を何度でも来たい街にすることができるのではないかと考えました。



③チーム財布貸夫

このグループは政治・経済を高梁の未来ビジョンを考える上で重要なものと位置づけました。政治・経済が良くなれば社会全体がよい方向へと動き出し、さらに循環させることができるのではないかとまとめました。



④チームあい

このグループは、「環境」を中心に高梁の未来ビジョンを考えました。環境から様々なものが派生していき、最終的には医療・福祉・教育の充実や、コミュニティの発展などにつながると考えました。



3) アンケート記載事項のまとめ

<良かった点>

- ・自分の意見を大事にしてもらえる。これはだめだという事がない。
- ・"Post it"方式は発表する（考える）人の性格がよくわかります。とても楽しかったです。
- ・真剣に高梁の未来を考えました。
- ・世代の違うメンバーと意見交換ができ、良かった。
- ・準備、設営、大変おつかれとおもいますが、ありがとうございました。
- ・自分の考えていない意見もたくさんあって、勉強になりました。
- ・学生さんが一生懸命、リードしようとしていました。
- ・いろいろな世代のお話が聞けて良かった。
- ・世代を越えたコミュニケーションを持てた笑
- ・高梁の魅力、課題についての発見。
- ・様々な年代の人との話し合いができた。
- ・各グループともテーマが分かれています、問題点を認識できた。
- ・色々な世代の方とお話しできたこと。
- ・充実した時間でした。
- ・社会人と学生が意見を出し合えたこと。
- ・各班の考えが違う結果になったこと。
- ・高梁の未来が明るくなったこと。
- ・スタッフが率先して動いていた。
- ・いろいろな年代の人の意見が聞けてよかった。
- ・プログラムの企画がよかった。
- ・大人と学生との会話をつうじて様々な意見をかわせた。
- ・学生からのこのまちにたらないものを感じた。
- ・若い世代の方々と交流できた点。
- ・留学生、若い学生さんと話が出来たこと、考え方を聞いたこと。
- ・進め方が参考になったこと。
- ・学生さんの発表力に感心したこと。
- ・世代を超えて、色々意見が聞けたこと。
- ・活発な意見が出る雰囲気作りがすばらしかった。
- ・学生のみなさんの様子が大変よかったです。
- ・学生が積極的だった。
- ・ワークショップが良い。
- ・色々な意見がきけ、勉強になりました。
- ・次に活せる話がありました。

<悪かった点>

- ・ 学生さんの高梁に望むものをもっと聞きたかったです。
- ・ 事前のアンケートで、吉備国際大学の学生さんの状況、高梁に住んでいない理由、将来、高梁に望む事の意見がほしかったカナ
- ・ 高梁市の現状報告、課題について、もう少し具体的に問題点があればおもしろいと思いました。
- ・ 各セッションで、めざすイメージができにくかったです。
- ・ 自分の班（6班）に学生ファシリテーターがいなかった気が…
- ・ 「〇〇社会」というテーマでは、考えるのが難しかったです。
- ・ 初めてであったので、少し動きにとまどっていた。
- ・ ワークショップの課題が大きかった。
- ・ 声が小さい。
- ・ グループの年齢差が大きすぎることはよいとも言えるし、ちょっと温度差を感じることもある。
- ・ タイムスケジュール（ワークショップ）がきびしかった。

<感想>

- ・ 本日はありがとうございました。私達の活動の中に“学生応援協力隊”があります。いつも感じるのは私達の一方的な協力であり、学生の要望を取り入れてない協力です。今日のように学生さんと一緒に“何が必要か”“学生さんが高梁に望んでいるものは何なのか”しっかり話しあえるといいなと思いました。
- ・ 「高梁ならでは」…の、話が出しにくい展開で、ほとんど気の利いた意見を出してあげられず、申しわけなかったです。今後は、ぜひ、テーマをしぼって…「高梁の未来」のひとつのテーマ、「生涯学習エリアづくり」好適地だと思います。
- ・ ワークショップ後に懇親を持てる時間があれば… もっと学生さんの意見をフリートークでもお伺いしたい。
- ・ 話し合うことで理想の高梁は見えてきたように思うが、これを実現するためには若手と大人、地域の人々とのつながり、コミュニケーションを取ることが大切だと思う。
- ・ 今後もエデュカーレ in 高梁のようなイベントを続けて行けば、何か新しい物が生まれる気がしました。
- ・ 大学が地元で根ざした活動を行っていただけことが今後の発展につながると感じました。
- ・ 今日の話し合はとともさんこうになりました。これからも生かしていきたいです。
- ・ 自分の発想とは違った人たちの意見をきけてなるほどそういう答えもあるんだとわかった。とても楽しかったです。
- ・ 皆さんの意見を聞いて、未来の高梁への想いを感じました。若者のにぎわう町にした。「人」を大事にした。
- ・ “人”“つながり”が未来を作っていく…。
- ・ 実行委員会を組織したことはすばらしい。最初のプレゼンテーションがとてもよかつ

た。しかも学生さんが調べて発表したこと、内容もしっかりしていたこと、とてもよかった。

- ・具体的な施策まで発表していない部分もあり、今いちであった。
- ・これからもこういった取組をつづけて下さい。
- ・人数を多くして、また開催してほしい。

4. おわりに

吉備国際大学学生の企画・運営による「エデュカーレ in たかはし」を開催し、学生にとっては大学では学べない多くのことを学ぶことができました。この企画は学生が、高梁という地域で、地域と共に学ばせていただき、少しでも地域に貢献することができればとの思いから企画されたものです。

今回は、高梁の未来ビジョンについて考えるワークショップを行いました。テーマが大きかったこともあり、最後のワークで挑戦した未来ビジョンづくりは失敗であったといえます。しかしながら、参加者同士で高梁の未来について話し合ったことは今後の地域づくりに生きてくるものと思います。なによりも、学生が地域づくりの大切さに気づき、将来自らが積極的に地域づくりに関与するためのきっかけになったことと思います。

「エデュカーレ in たかはし」は吉備国際大学の学生が、高梁という地域の中で、地域について学ばせていただき、学生の課題解決能力を向上させるとともに、地域のために役に立つ活動につながることを期待して開催しているものです。今後も試行錯誤を続けながら継続して開催していきたいと考えています。

5. 付録

1) 実行委員名簿

◇実行委員長

矢田 勇介（国際環境経営学部 環境経営学科 3年）

◇副実行委員長

白神 章文（国際環境経営学部 環境経営学科 3年）

高山 真紀子（社会科学部 経営社会学科 2年）

◇実行委員

安藤 皓星（国際環境経営学部 環境経営学科 3年）

崔 善基（チェ ソンギ）（国際環境経営学部 環境経営学科 3年）

Tiomico Lea Krizzel(ティオミコ レイア クリゼル)（環境経営学科 3年）

花谷 ほな美（国際環境経営学部 環境経営学科 3年）

荒木 佑介（社会科学部 経営社会学科 2年）

在末 潤平（社会科学部 経営社会学科 2年）

板垣 拓哉（社会科学部 経営社会学科 2年）

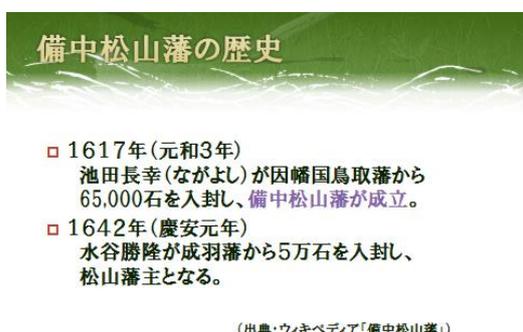
2) 情報共有資料

①高梁の歴史と文化（荒木・ティオミコ）



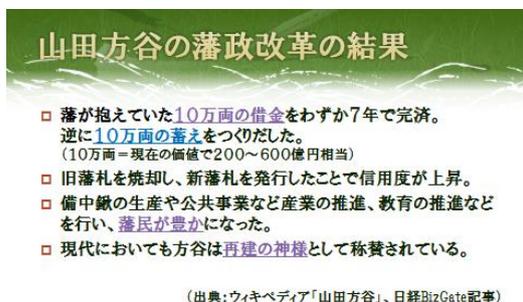
室町時代までの高梁

- 3～7世紀ごろ（古墳時代）
吉備国とよばれる有力な地方国家が存在。
（現在の岡山県全域・広島県東部・香川県の高橋部）
- 689年
壬申の乱の後、大和朝廷により吉備国が3分割。
高梁の地は備中国に属することになる。
- 1240年（鎌倉時代）
備中松山城が築城。
（出典：高梁市史、ウィキペディア「吉備国／備中国／備中松山藩」）



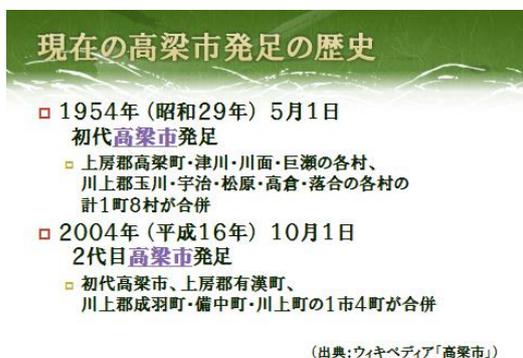
幕末から明治初期にかけて

- 幕末維新期に板倉勝静が7代目松山藩主になる。
- 勝静は藩政に山田方谷を起用し、当時深刻な状態だった藩政改革に着手（結果は後述）。
- 1868年（明治維新の年）
鳥羽・伏見の戦いの1週間後に朝廷から松山藩追討令。
板倉勝静不在の松山城を接収。
- 戊辰戦争後
山田方谷の決断で松山城を無血開城。
備前岡山藩の支配下におかれる。
- 1873年（明治6年）
廃城令により、松山城を廃城。
（出典：ウィキペディア「板倉勝静」「山田方谷」）



現在の岡山県発足の歴史

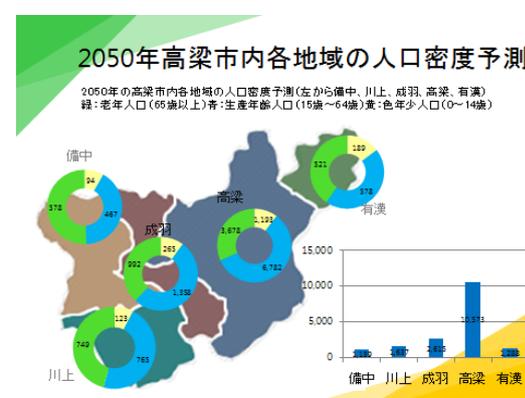
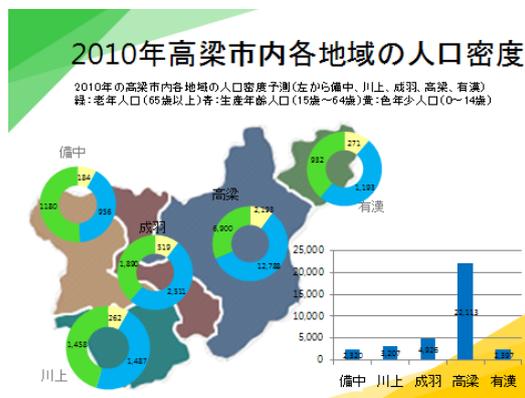
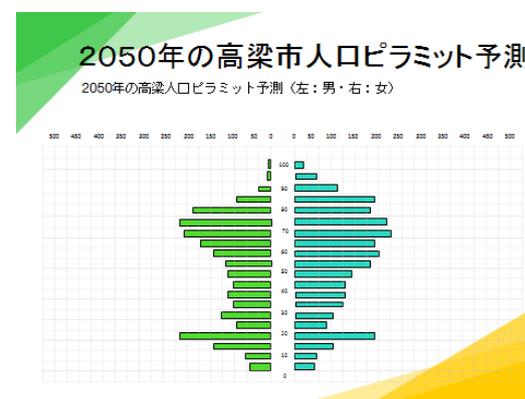
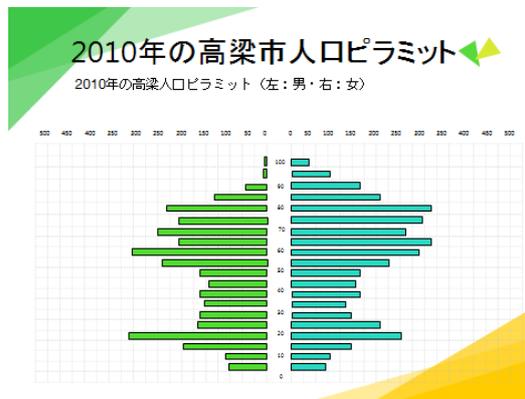
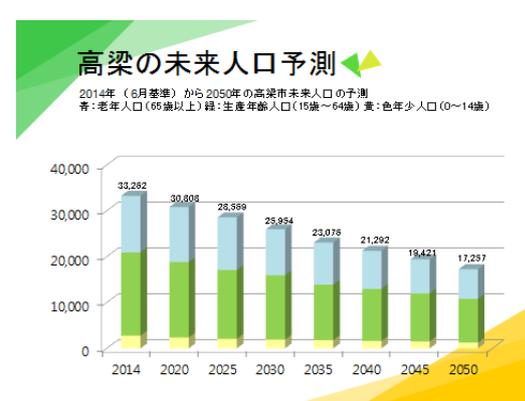
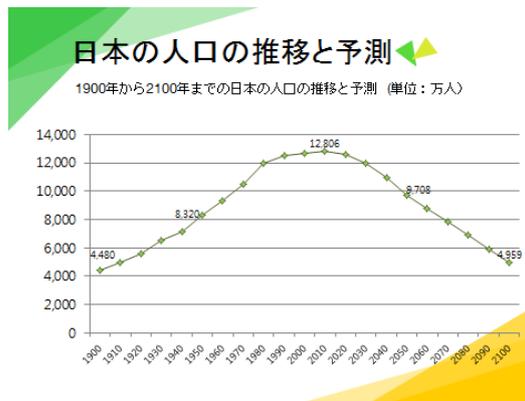
- 1869年（明治2年）
備中松山藩が高梁藩に改称。
- 1871年（明治4年）
廃藩置県により高梁県が発足。
まもなく、第1次府県統合により深津県になる。
- 1876年（明治9年）
第2次府県統合により岡山県になる。
（出典：ウィキペディア「小田県」）



高梁の伝統文化

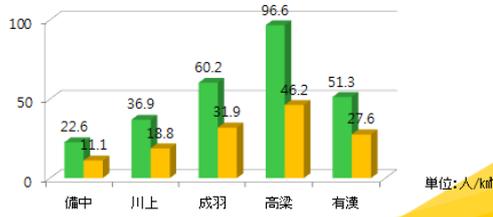
- 備中たかはし松山踊り
 - 地踊りは1643年（慶安元年、藩主の水谷勝隆の頃）、農家の五穀豊穡を祈願し、町家の繁栄を祝ったのがはじまり。
 - 仕組み踊りは延享元年、伊勢亀山から移封された城主、板倉勝澄（まさすみ）が武士達に習わせ、城中の酒の席で踊らせたのがはじまり。
- 備中神楽
 - 備中地方で行われる荒神信仰による採物神楽の一種。旧来からの荒神神楽に、西林国綱（にしばやし・こっさよう）が文化・文政年間、神代神楽を加えて完成された。
 - 現在では郷土芸能としてだけではなく、備中地方各地区の田舎芸能として行われ、親しまれている。
（出典：備中高梁観光案内所ホームページ、ウィキペディア「備中神楽」）

②人口推移と未来の予測（白神・チェソング）



2010・2050年の高梁市内各地域の人口密度/予測

参考：2010/2050年の岡山市の人口密度・予測
2010年：893.8人/㎢ 2050年：708.7人/㎢



ありがとうございました

エデュカル in 高梁

すべての出典は 高梁市役所分庁舎定住対策課、高梁市ホームページ(統計で見る高梁)データでわかる2030年の日本(著者：三浦展)

③高梁の経済状況 (板垣・高山)



高梁の経済状況

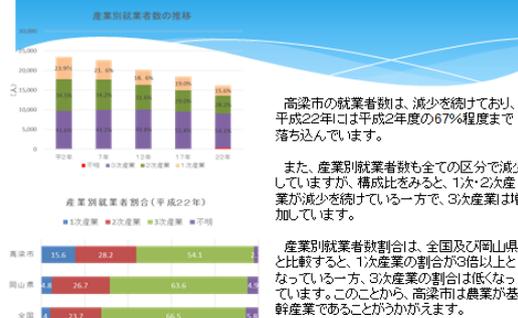
高梁市は昭和30年代から高度経済成長に伴い、岡山県中西部の拠点都市として栄えてきましたが、土地的条件に恵まれていないために、社会的・経済的地盤を低下させることとなりました。特に若年層を中心とした人口の流出は高齢化に拍車をかけることともに、出生率の低下も地域の機能低下をもたらしています。

産業別職業人口の推移をみると第一次産業の職業人口は兼業農家増加により減少すると同時に、農業継承者の不足、就業者の高齢化が中山間地域の活力の低下や農地の廃園をもたらしています。

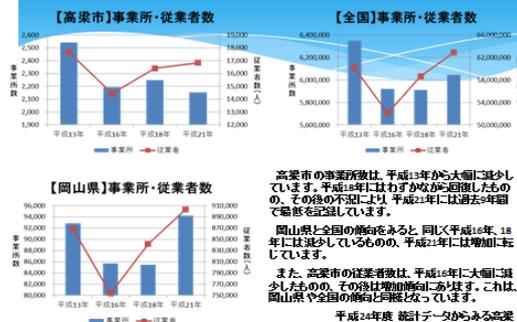
第二次産業及び第三次産業の職業人口の割合は増加傾向にあります。しかし、地域経済自体は小規模であり、雇用の場の創出のため今後さらに地域経済力を向上させる必要があります。

出典：高梁市ホームページ

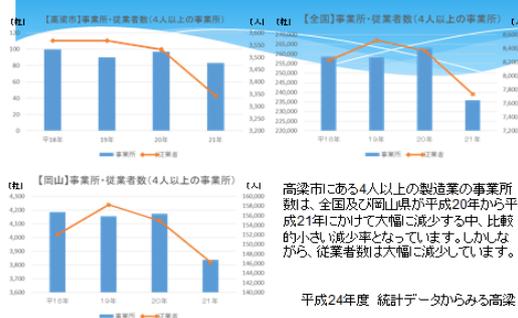
産業別就業者数



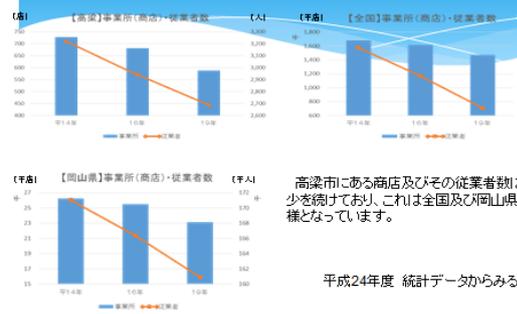
事業所・従業者数



事業所・事業者数(製造業)



事業所(商店)・従業者数(商業)



被生活保護者

人口千人あたりの被生活保護者数(人)					
	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
高梁市	5.80	5.70	5.20	5.64	7.15
岡山県	9.95	9.88	10.03	11.01	12.28
全国	11.85	12.08	12.47	13.83	15.24

参考:市民生活部福祉課 岡山県「101の指標からみた岡山県」
岡山県「岡山県毎月流動人口調査」

国民健康保険医療費

人口1人あたりの国民健康保険医療費(円)					
	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
高梁市	530,696	560,691	376,413	391,830	398,159
岡山県	448,078	465,577	313,197	323,219	332,425

参考 岡山県 「国民健康保険事業状況」

④持続可能な社会の指標（花谷・在末）

持続可能な社会の指標

花谷・在末

はじめに

- ＊「地域の活性化」とはどのようなことなのでしょう？
- ・地域経済の規模が大きくなり、人口が増え、観光客が増えることなのでしょう。
- ＊「地域の活性化」とは、そこに住む人々やまちが元気になることではないのでしょうか。
- ＊「地域づくり」とは、幸せに暮らせる地域社会をつくることではないのでしょうか。
- ＊安心して、楽しく、豊かに、誇りを持って暮らせる地域社会を考えるときに来ていると思います。

これまでの成長指標の問題点

- ＊ GDP及びGNPの問題点
- ・国民にとってマイナスの要素である環境汚染、戦争、自殺、交通事故などが加算されてしまう。
- ・GNPを開発したクズネッツ自身がGNPが福祉の指標として使われることを危惧し、「国民の福祉はGNPの尺度からはほとんど推し測ることができない」と述べている。
- ・GNPは経済的厚生（ウェルフェア）の指標ではないため、GNPの最大化は政策目標として不適切である。

主観的幸せと客観的幸せ

- ＊ 主観的幸せ
 - 幸福度、生活満足度、感情的幸福、ディーナーの人生満足尺度（いずれもアンケート調査による）
- ＊ 客観的幸せ
 - GNH、BLI、ISEW、HDI、HPI など

持続可能な社会の指標

持続可能な社会を構築するためには、持続可能な社会のビジョンが必要であり、そのビジョンが達成されたときの指標が必要である。少なくともGDPに代わる指標が必要であるが、世界共通の指標を作成することは困難である。

- ＊ GNH 国民総幸福 ブータン
- ＊ HDI 人間開発指数 国連
- ＊ MEW 経済福祉尺度 ノードハウス&トービン
- ＊ NNW 国民純福祉 NNW開発審議会(日本)
- ＊ ISEW 持続可能な経済厚生指標 ハーマン・テイラー、クリフォード・コブ
- ＊ GPI 真の進歩指標 クリフォード・コブ
- ＊ SEEA 環境・経済統合勘定
- ＊ HPI 地球幸福度指数 NEF(英国)
- ＊ HSM 人間満足度尺度
- ＊ その他

GNH(Gross National Happiness) 国民総幸福量

- ＊ 1972年にブータン王国の国王ジグメ・シンゲ・ワンチュク（Jigme Singye Wangchuck）の提唱で、ブータン王国で初めて調査され、以後、国の政策に活用されている。
- ＊ GNHの4つの柱
 - 1.公正で公平な社会経済の発達
 - 2.文化的、精神的な遺産の保存、促進
 - 3.環境保護
 - 4.しっかりとした統治

HDI(Human Development Index) 人間開発指数

- * パキスタンの経済学者マブール・ハックによって1990年に作られた。1993年以降、国連年次報告の中で各国の指数が公表されている。
- * 人間開発指数を計算する指標
 - 1.平均余命指数(85歳で1)
 - 2.教育指数
 - 1)成人識字率(15歳以上)
 - 2)総就学指数(初等・中等・高等教育)
 - 3.GDP指数(40000USD/人で1)

MEW(Measure of Economic Welfare) 経済福祉尺度

- * 1972年に米国の経済学者W・ノードハウスとJ・トービンが提言。
- * この指標はGNPを否定するものではなく、GNPに次の3つの分野で修正したものである。
 - 1)GNPの支出を消費、投資、中間に再分類
 - 2)消費者資本のサービス、余暇、そして家事労働による生産の帰属
 - 3)都市化による不快さを部分的に調整
- * MEWは余暇や家事労働の生産性を導入し、都市化による生活満足度の減少分を調整したものである。

NNW(Net National Welfare) 国民福祉指標

- * 国民の福祉水準を測る指標。
- * 国民総生産(GNP)から軍事などの福祉に役立たない部分を控除し、福祉に不可欠な余暇・家事労働などを加算したもの。

ISEW(Index of Sustainable Economic Welfare) 持続可能な経済厚生指標

- * 環境保護派の経済学者クリフォード・コブと世界銀行の経済学者ハーマン・テイラーが考案。
- * GDPを改善し地球環境の持続可能性により特化した経済指標。
- * 過去一代にわたって貨幣の富は増えたが、幸福度が低下したことを証明した。

SEEA(System of Environmental and Economic Accounting) 環境・経済統合勘定

- * 1992年の国連の地球サミットで採択された、アジェンダ21に基づいて誕生した勘定体系。
- * 非生産自然資産に関するデータを記録の対象として重視した。
- * 環境悪化を食い止めるための支出が、経済効果としてGDPを増加させてしまうということを修正している。

HPI(The Happy Planet Index) 地球幸福指数

$$\frac{\text{生活満足度} \times \text{平均余命}}{\text{エコロジカル・フットプリント}}$$

- * 英国のニューエコノミクス財団(nef)が算出。
- * 地球環境に持続可能で、社会的に公正な方法で、個人および集団の幸福を高めることを目指している。

幸福に影響する要因

- * 年齢、性別、健康、宗教
- * 結婚、対人関係、社会的比較、感謝、親切
- * 性格、気質
- * 目標、教育、学習、成長
- * 収入、雇用、消費、生活、趣味
- * 政治、安全、文化

3) チラシ

第1回 エデュカーレ in たかはし

みんなで作る高梁の未来ビジョン

～ 創造しましょう高梁の未来 語り合しましょうこの街の幸せ ～

日時：平成26年7月19日(土) 13時00分～17時00分

会場：吉備国際大学国際交流会館2階多目的ホール

内容：13時00分～13時10分 趣旨説明

13時10分～14時00分 高梁市の状況報告と課題の共有

14時00分～16時00分 高梁の未来ビジョンづくり

16時00分～17時00分 成果の発表と共有

参加費無料 申し込み不要 どなたでもご参加いただけます

「エデュカーレ in たかはし」では、参加者全員で高梁地域の未来ビジョンの作成と未来ビジョン達成方法、地域課題の解決策について考えます。あなたの思いを形にしませんか？どなたでもご参加いただけます。もちろん、高梁市外在住の皆さんも大歓迎です。

お気軽にご参加下さい



主 催：エデュカーレ in たかはし実行委員会
共 催：高梁商工会議所青年部
後 援：高梁市
協 力：吉備国際大学井勝研究室

連絡先
〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町
吉備国際大学 社会科学部 経営社会学科
井勝(いかつ)研究室
TEL/FAX:0866-22-9223
E-mail:ikatsu@kiui.ac.jp

「エデュカーレ in たかはし」

市民と学生が一緒になって地域課題の解決を目指すフォーラムです。また、ファシリテーション能力を備え地域課題を解決するための手法を身につけた市民や学生を育成することを目的としています。実行委員会は吉備国際大学の学生で組織されています。

「エデュカーレ」は「エデュケーション」の略語となったラテン語で「引き出す」という意味があります。「エデュカーレ in たかはし」には市民や学生の課題解決能力を引き出すという思いが込められています。

4) アンケート

第1回 エデュカーレ in たかはし

アンケート

年齢： 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80以上

性別： 男性 ・ 女性

居住地： 高梁市内 ・ 高梁市外

スタッフの動き： 悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった
(改善点：)

全体プログラム： 悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった
(改善点：)

ワークショップ： 悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった
(改善点：)

本日のフォーラムの良かった点をご記入下さい

1. _____

2. _____

3. _____

本日のフォーラムの悪かった点をご記入下さい

1. _____

2. _____

3. _____

本日のワークショップの成果は、まちづくりの参考になりますか？

参考にならない 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 参考になる

感想をご記入下さい。

次回以降の開催連絡をご希望の方は、連絡方法に○をして必要事項をご記入下さい。

1. facebook での情報を希望される方は、facebook のエデュカーレ in たかはしのページに「いいね」をして下さい。情報が届きます。

2. チラシの送付を希望される方は住所、氏名をご記入下さい。

〒 _____ 氏名： _____

3. メールでの連絡を希望される方はメールアドレスをご記入下さい。

メールアドレス： _____ 氏名： _____

5) 写真

①受付風景



②司会者（ティオミコ）と実行委員長（矢田）の挨拶



③ファシリテーター（井勝）と閉会の挨拶（五島）



④アイスブレイクとグループ分け



⑤高梁の現状報告





⑥ワークショップ風景





⑦各グループの未来ビジョンの発表



⑧グループ内でシェアリング



⑨シェアリング結果の発表

